

XXIII World Congress of Neurology

September 16–21 2017
Kyoto, Japan



2017年10月吉日

ご参加いただきました非会員の皆様へ

第23回世界神経学会議/第58回日本神経学会学術大会 開催報告と御礼

去る9月16日から21日、世界神経学連合と日本神経学会・日本学術会議の共催で、第23回世界神経学会議(WCN2017)・第58回日本神経学会学術大会が、国立京都国際会館で開催されました。秋篠宮殿下・妃殿下をお迎えしての開会式では、秋篠宮殿下から神経内科の今後の発展に大きな期待を寄せるお言葉を頂戴し、厳粛な中にも明るく希望に満ちた会議の幕開けとなりました。学術・教育プログラムでは利根川進博士、エドヴァルト・モーザー博士、山中伸弥博士3名のノーベル医学・生理学賞受賞者によるプレナリー講演をはじめ、世界中から招かれたトップ研究者の学術講演、教育講演が観衆を魅了しました。社交プログラムに関して述べますと、17日の開会式後に国立京都国際会館で行われたウェルカムレセプションは強風のため屋内開催となりましたが、日本の太鼓や和服のダンサーによる踊りが観客を楽しませました。また20日、世界遺産の醍醐寺で行われた日本文化ネットワークイベントでは、ライトアップされた三宝院の日本庭園、パーティー会場となった霊宝館の国宝の仏像や絵画、開宴にあたって行われた僧侶の声明が海外からの参加者に深い感銘を与えていました。17日夜に近畿地方に到達した台風18号は、大会プログラムに大きな影響を与えることなく、その後はおおむね天候に恵まれ、6日間の日程を無事終了することができました。

6日間の本会議参加者総数は8,641名となり、これは1931年ベルンでの第一回会議以来86年の歴史を誇る世界神経学会議史上最大となりました。この中で国内参加者は5,111名を数え、その多くは国内の神経内科医、神経科学に関わる医師、研究者、メディカルスタッフ、日本企業の方々と存じます。皆様のご支援とご協力なくして今大会の成功はありませんでした。心より御礼申し上げます。また国内参加者の中には、43名もの学生が世界神経学会議に参加し、未来の芽を育むことができました。さらに、国外のうちアジアオセアニアからの参加者が1,500名を超えたことも今大会の大きな成果でした。今後、国際化の進んだ日本神経学会学術大会に、国外、特にアジアオセアニアからより多くの神経内科医、神経科学に関わる医師、研究者に参加していただく基盤が、WCN2017で築かれたように感じております。

次大会の第59回日本神経学会学術大会は、例年の学術大会の運営に戻り、2018年5月23日(水)～26日(土)札幌に於いて開催されます。今後も奮ってご参加いただければ幸いです。

末筆ながら皆様の益々のご健勝とご発展を祈念いたします。

第23回世界神経学会議大会長 水澤英洋
第58回日本神経学会学術大会大会長 宇川義一
日本神経学会代表理事 高橋良輔